

## アップサイクルな公園改修から ひろがる地域交流

活動時期 2022年9月～2023年5月

活動場所 日暮里公園、近隣保育園（東京都荒川区）

荒川区の日暮里公園は都心で季節の移ろいを感じられる貴重な緑地として長く親しまれてきた公園です。今回の改修工事では、近隣の住民や保育所の方などと親密にコミュニケーションをとりつつ、既存の樹木の保存や撤去予定の構造物の再利用をするなど、モノとなるべく捨てずに次世代へ活かす“アップサイクル”な造園工事につとめました。公園内の柿の木は、たくさん実った実を無駄にしないために剪定時期をずらし、柿の実を隣接する保育園におすそわけしたり、現場事務所で干し柿づくりを楽しみました。

### 活動の目的

都市公園の改修工事では、積極的な設計変更の提案によって撤去予定物の再利用を行うことで、施工コストを下げつつ、環境負荷をさげることができます。また地域と公園の記憶が刻まれた材をつかうことは、公園の表情を豊かにすることにもつながります。

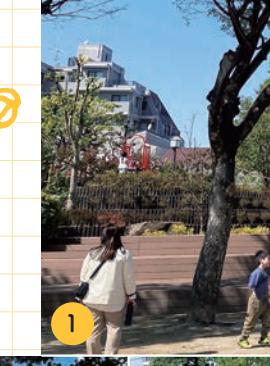
### 取り組み・成果

日ごろから近隣保育園との良好なコミュニケーションにつとめた結果、園庭改修工事の依頼をいただきました。こちらでも、改修工事にともなって発生した材を“アップサイクル”して、園庭にツリーサークルを製作しました。

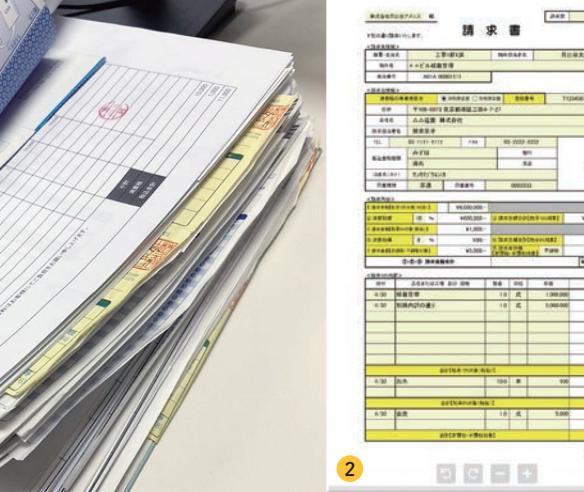
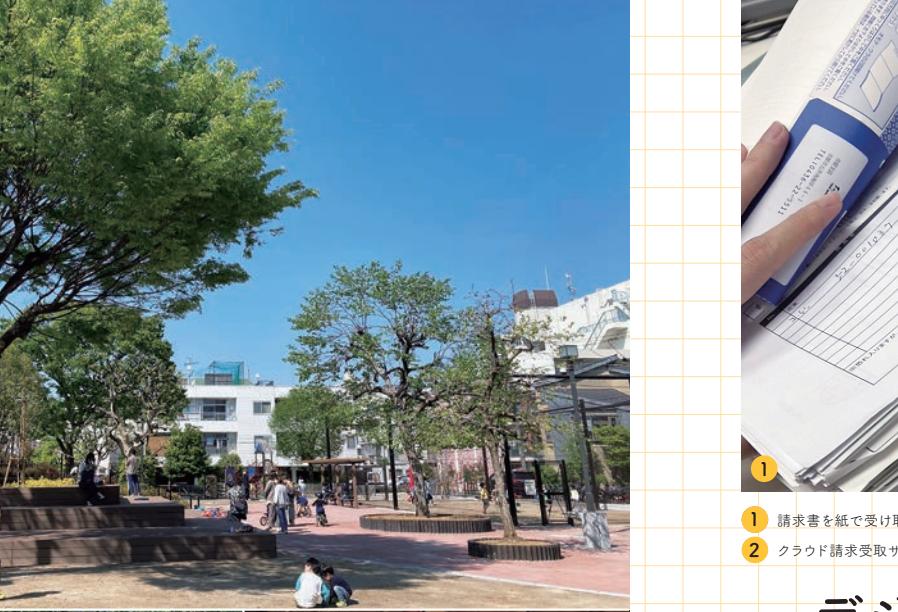
### 今後の目標・課題

モノとなるべく捨てずに次世代へ活かす“アップサイクル”な造園施工という視点は技術者の工夫、腕のみせどころですが、改修工事は毎回、状況や特性が異なります。それぞれの現場での“アップサイクル”な知恵を共有し、ベテラン社員から若手社員へ技術を継承していくことが今後の課題です。

活動実施会社 北部緑地株式会社



1 2 日暮里公園の改修後の様子。  
3 既存の「日時計」を捨てずに再利用し、当時のおもかげを残しています。  
4 既存の「石製水飲み」や景石も捨てずに再利用し、踏み石にしています。  
6 近隣保育園園庭の改修前の様子。  
7 近隣保育園園庭の改修後の様子。発生材を再利用して、ツリーサークルを製作しました。



- 1 請求書を紙で受け取っており、環境に負荷をかけている状況でした。
- 2 クラウド請求受取サービスを導入することで、請求書を電子化し、環境負荷の軽減に貢献しています。

## デジタルシフトを推進し 環境負荷の軽減に貢献しています！

活動時期 2021年5月～現在

活動場所 日比谷アメニス本社他 各事業所（東京都港区他）

2021年4月締めまでは、請求書は全て紙で受け取っていました。そのため、決裁するのに時間がかかるなど、決して業務効率が良いとは言えず、何より、紙を多く消費したり、郵送による温室効果ガスの発生等で、環境に負荷がかかる状態となっていました。そこで、業務改善や環境負荷の軽減という観点から、デジタルシフトするメリットは大きいと考え、クラウド請求受取サービスの導入を決定しました。

### 活動の目的

2024年1月1日より、電子帳簿保存法に則って運用をする必要があるため、請求書は紙媒体での保管が不可能となります。これに伴い、紙での受付を減らすことで、ペーパーレス化を目指し、さらに取引先の発送業務が省力化されることで、温室効果ガスが削減され、フロー全体で環境負荷の軽減に繋げることを目的としています。

### 取り組み・成果

49期比のA4請求書ベースで年間約20,000通の削減に繋がっており、日比谷アメニスグループだけでなく、取引先から発生したであろう資源も削減できています。また、クラウド請求受取サービスの導入は、業務改革のみではなく、コスト削減や生産性の向上、環境保全を通じた活動にも繋がる取り組みとなっています。

### 今後の目標・課題

仕入先から、メールやWebアップロードで請求書が届く割合は、2023年7月時点で71%となっています。未だに約3割が紙媒体で請求書が届くため、社外・社内共に「メールやWebアップロードを促す」という対応をとっており、これからも継続実施し、環境負荷の軽減に努めています。



- 1 子ども達が元気に登る姿を想像しながらルートをセットします。
- 2 ボルダリングウォール完成！学校内の昇降口や廊下など、ちょっとしたスペースで運動できます。



- 1 子ども達が元気に登る姿を想像しながらルートをセットします。
- 2 ボルダリングウォール完成！学校内の昇降口や廊下など、ちょっとしたスペースで運動できます。

## 子ども達の健康を応援する ボルダリングウォールの設置

活動時期 2022年10月～2023年3月

活動場所 港区内の区立小学校4校（東京都港区）

スポーツクライミングの種目の一つボルダリングは、東京2020大会で新競技として採用され、全世代向けのスポーツであることや、狭い場所でも運動可能であることから注目を浴びています。長く続いた新型コロナウイルス禍により、子ども達が体を動かす場所が制限され体力低下が顕著になっていく中、ボルダリングウォールの設置という形で、子ども達が楽しみながら健康な身体づくりができる場所の創出に貢献しました。

### 活動の目的

東京都港区は全ての小学校と幼稚園にボルダリングウォールの設置を計画し、そのうち4校でのボルダリングウォールの設置に携わることができました。子ども達の健康維持はもちろんのこと、未来を担う子ども達にレガシー（遺産）を継承することも狙いとしています。

### 取り組み・成果

4校それぞれにおいて、利用場所や難易度などを先生と一緒に考えながら、子ども達に合わせたボルダリングウォールの提案を行いました。施工期間中には「いつから使えるの？」といった子供たちの楽しそうな声が聞こえてきました。

### 今後の目標・課題

精度の高いスポーツ施設を創るより、利用者目線で創ることの方が難しく、今後も利用者に寄り添うような事業を展開していくきます。また、健康意識の広がりは今後も続くと思われ、ボルダリングウォールの設置のみならず、様々な形で全世界の健康維持に貢献していくきます。

